

海辺の自然体験活動が 子どもたちの育ちにもたらすもの

東京海洋大学 海洋政策文化学部門 海洋利用管理学講座
准教授 千足 耕一

海辺の自然体験活動は、なぜ必要なのでしょう。海辺の自然体験活動の具体的な例は本書に詳しいのですが、例えば、「海辺での生きもの観察」あるいは「砂や波を利用した遊び」は、子どもたちにどのような学びを与えるのでしょうか。

海辺の自然体験活動は、海辺で、海辺の自然を活用して行う各種活動であり、野外活動、自然・環境学習活動、文化・芸術活動、漁業体験等の第一次産業体験などを含んだ総合的な活動です。これらの活動を実施することによる、直接的な体験からの学びが期待されています。

直接的な体験からの学びは、指導者による一方的な知識等の伝達ではなく、学習者自身が自ら気づき、学び、行動につなげていくといった事柄を重視しています。これは「探求型の学習（課題発見・解決型の学習）」として説明されます。海辺は不思議に満ちた世界であり、学習者が興味を持つ題材にあふれています。また、海が私たちに多くの恩恵を与えてくれることを理解したり、私たちが自然の一部として生きていることを体感させてくれたりする場もあります。海辺という自然の中での直接的な体験を通して、自然やそのつながりの理解、社会性を促す他者との調和的なかわり、健全な心身の育成に通じる全人教育がなされることが期待されているのです。

子どもたちの生きている現代は、経済発展やライフスタイルの変化に伴い、エアコン等によって快適にコントロールされた環境に身を置くような生活が浸透してきています。またゲームなどに代表されるような、ヴァーチャル空間があふれています。

コントロールされた生活環境に慣れてしまうことは、子どもたちの自然に対する危機感や自然に対するセンサーを鈍らせてしまうことにもつながります。ヴァーチャル空間での経験しか持っていなければ、現実の社会で通用するような適応能力や行動力を持つことが難しいと思われます。リアルな体験を通じて自然や他者と共に生きることのベースを幼少時に養っておくことは、現代において非常に重要と言えるのではないのでしょうか。

海水面の温度上昇、気象の変化、水産資源の減少など、私たちの直面する海にまつわる課題は非常に多くなってきています。このような事実について、頭の中では理解されている一方で、具体的な対処方法を各自が実践するまでには至っていないように思われます。リアルな感覚を取り戻すために、海に目を向け、海と親しみ、海との正しい付き合い方を学ぶことこそが、これからの日本人の課題でもあります。海辺で活動することで、海から陸地や地球全体に目を向ける視点を持ち、海に対するセンサーを敏感にさせることは、自然の中で生きる緊張感や現実感を持ちながら暮らしていくことにつながります。海辺での自然体験活動を通して、海と賢くつきあう方法を子孫に伝えていくことが、今こそわれわれに求められているのではないのでしょうか。